

未来への伝承

上高津貝塚以後の動物たち

今回の未来への伝承は、土浦市内の上高津貝塚以後の遺跡で見つかった動物関係の遺物を紹介します。

常名の弁才天遺跡からは、奈良時代の竪穴住居から、ブロック状に貝を捨てた跡が見つかりました。貝の

内訳はハマグリ19・9^{グラム}、ヤマトシジミ1・3^{グラム}です。

上高津新町のうぐいす平遺跡からは、古墳時代前期の竪穴住居から、土器をふせた内部に火を受けたアカニシが、入ったままの状態出土しました。また平安時代の

竪穴住居からは、ヤマトシジミがブロック状に捨てた状態で見つかります。同じく、この遺跡の平安時代の井戸からは、貝や動物の骨が多数出土しています。貝の大部分はヤマトシジミで、その他にはイガイ、オオタニシ、マイマイが、動物の骨にはシカ、イヌ、ウシなどがみられました。

真鍋小学校の改築に伴い調査した大宮前遺跡からは、平安時代終わりから鎌倉時代初め頃の貝を捨てた坑が見つかりました。貝は全てヤマトシジミ

ミで重量1・4^{キログラム}、うち右側が833個、左が844個で、バラバラの状態というよりもある程度まとまった状態のものを捨てたと考えられます。

小岩田東の神出遺跡からは、地下式坑と呼ばれる埋葬用の坑から、流れ込むような状態で大量のヤマトシジミとオオタニシが出土しました。共に出土したかわかけの年代から、室町時代中頃のものと考えられます。

沖宿の入ノ上遺跡からは、ウマを埋葬した坑が多数見つかり、そのうち1基からは灯明皿がウマの頭上に置いた状態で出土しました。皿の年代は室町時代です。

下坂田の下坂田中台遺跡からも、かわかけとともにウマを埋めた坑が見つかりました。分析の結果、体高約120^{センチメートル}で、10〜12才程度のオスのウマと分りました。この遺跡では、溝の中からイノシシ、シカ、イヌ、ウマの骨が、井戸からもイノシシとウマの骨が出土しました。なお常名の神明遺跡からも、中世のウマを埋葬した跡を発見しています。

土浦城跡の本丸調査からは、貝や土器などを廃棄した跡が3か所みつかっています。貝はシジミが7割以上で、アサリ、アオヤギ、ハマグリ、サザエなども見られます。鳥や陸の獣の骨も見られました。一緒に出土した土器や陶磁器の年代から、17世紀頃のものと考えられます。

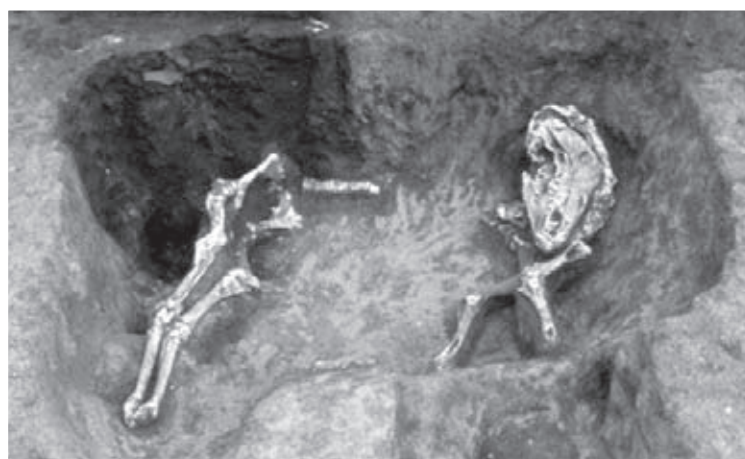
これらを見る限り、貝類はヤマトシジミをはじめとする汽水系の貝が大部分を占め、上高津貝塚と似通っていることが分ります。ただし土浦城では、城主のためかアオヤギ、サザエなど遠隔地の貝も見られました。

中世の後半には、ウマを埋葬した跡が点在しています。大切に埋めていたのは、台地の上に牧を設けた武士達が大事に訓練していた馬たちだったからかもしれません。

今回ご紹介しました資料の一部について、11月末まで考古資料館にて展示中です。ぜひご覧ください。

岡上高津貝塚ふるさと歴史の広場

(☎826・7111)



「下坂田中台遺跡の馬の埋葬状況」
首を曲げた状態で埋められています。かわかけが1枚出土しており、埋葬時に何かをお供えしたようです。(室町時代)